

沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2010年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教学院大学

2010

Introduction to the term end questionnaire results

Randolph H. Thrasher, President

The overall pattern of the data has not changed very much from the Spring term and from previous years. These results show that the students believe we are providing good classes and that most teachers are performing well. In fact, compared with the Spring term, there is a slight rise in the means of all questions except number 15. There was also a decrease in the size of the standard deviation for all questions compared to the Spring term. This indicates that the students agreed more with each other in their evaluations or that student evaluations of different teachers were more similar. However, the standard deviations for questions 4, 12, 14, and 16 are at the .9 level or higher which indicates that we have to work harder to help teachers who have been rated lower than their colleagues to improve their teaching.

The one question in this set of results that does not have a higher mean than we reported in the Spring term is number 15. The means that the students report spending slightly less time doing homework than they reported in the Spring. This is particularly discouraging because this is an area in which we hope the students will do more.

The data show that we continue to provide an education that the students rate highly. But, unfortunately, these data also show that we are not making much progress in overcoming the weakness that have been obvious for several years. We need to do more to make our classes understandable to all of our students, to more carefully follow the syllabus of each class we teach, and teach in a way that makes our students want to study with us again. But I believe that our biggest task is to find better ways of getting our students to take more responsibility for their learning. The number of hours they are willing to work outside of class is the best indication of how much responsibility they are willing to take and the results of question 15 show that we must do a lot more to encourage students to study more.

巻頭言

2010年度後期・学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学
学長 Randolph H. Thrasher

データにみられる評価の全体的形態は、前期のもの・前学年度のものと同様でありません。この評価結果は、本学が良いクラスを提供し、ほとんどの教師が良い授業を行っている事を示しています。前期に比べると、質問 15 以外は全て平均値が僅かながら高くなっています。また、全質問に対する標準偏差値のサイズが前期よりも小さくなっているのが分かります。このことは、各学生の評価基準が近づいた事と多様な教師を評価するのにも何らかの類似性を示すようになった事を意味します。しかし、質問 4、12、14、16 の標準偏差値は.9、またはもっと高いものとなっています。これは、他の教師よりも低く評価され教師に対し、教育技術を高めるべく手助けをする必要があることを示します。

前期のものと同様に平均値が低くなっているものがあります。質問 15 です。宿題にかかる時間が僅かながら少なくなっています。とても残念です。学生には、特にもっと頑張ってもらいたい分野です。

このデータは、学生の評価の高い教育は継続されていることを示しています。しかし、このデータはまた、ここ数年弱点があり改善されていないことも示しています。授業を本学の全学生が理解できるように工夫しなければなりません。もっとシラバスに従い、学生が我々と学びたいという意欲を持つようにする必要があります。しかし、我々の最大の仕事は、学生が自ら学ぶことへの責任を持つ方法を見出すことにあるはずで、授業外学習時間数は、彼らの学習への意欲と責任の度合いを示します。質問 15 の結果は、学生がもっと学ぶよう手助けすることが大切であることを示しています。

沖縄キリスト教学院大学
自己点検・評価・改善委員会委員
(2010年度 後期)

Randolph H. Thrasher (委員長・学長)

山 里 恵 子 (委員・人文学部長)

金 永 秀 (委員・宗教部長)

山 城 眞紀子 (委員・教学部長)

上 原 明 子 (委員・入試部長)

高 崎 正 名 (委員・キャリア開発部長)

内 間 清 晴 (委員・図書館長)

伊 佐 雅 子 (委員・英語コミュニケーション学科長)

与那覇 明 弘 (委員・事務局長)

沖縄キリスト教学院大学
2010年度後期
学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

今回の学生による授業評価報告書は、2010年10月から2011年2月にかけての学期で開設された全85科目、113クラスについてのデータを分析したものである。評価活動は2011年1月に実施された。本章では全てのクラスを一括して分析する。すなわちクラスサイズの大小は問わず、回収された2665件の評価票についての統計分析の結果を提示する。

1 評価項目ごとの度数分布

全回答票を評価項目別に一括して度数分布を求めた。評価は5段階法による。評価は17の視点(項目)から行っている。(調査票は章末に掲げる) そのうち16項目は5段階法で評定し、1項目は6段階法である。評価の基準はつぎの通りである。

5：非常にそう思う

4：そう思う

3：どちらとも言えない

2：そう思わない

1：全くそう思わない

なお、Q15については次の様にしてある；

5：3時間以上

4：2時間くらい

3：1時間くらい

2：30分くらい

1：ほとんどしなかった

Q16についてはつぎのようにしてある；

5：秀

4：優

3：良

2：可

1：不可

0：わからない

以下に結果について述べる(分布表Q1～Q17参照)。まず、Q1～Q17について凡例を述べる。表中「度数」は、1～5(または0～5)のそれぞれに評価した人数である。「パーセント」は、その度数の全2665延べ件数に対する比率を示している。

「有効パーセント」は、「システム欠損値」除いた延べ件数に対する比率である。「システム欠損値」とは、無回答のことである。「累積パーセント」は、有効パーセントを積み上げたものである。

Q1からQ17の表は、それぞれ評価項目Q1からQ17の評価結果について度数分布を示す。比率は「有効パーセント」の数値を用いる。また、本文中では小数第1位を四捨五入して示す。

Q1「学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に

説明しました。」に対して71%の評価者が「5」（非常にそう思う）、と評価している。「4」（そう思う）、が22%であり、「5」「4」両評価を合算すると93%になる。授業への方向付けは極めて高い達成を示している、と考えられる。もっとも授業の目的の説明は「講義要項」に明記されているので授業中にあらためて説明するまでもないだろう。

Q2「宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。」については69%が「5」（非常にそう思う）と評価している。「4」（そう思う）評価は22%である。両者で91%である。この設問も、講義要項を読めば周知のことであり、Q1、Q2については取り立てて説明すべき事項ではないかもしれない。

Q3「先生は、授業について熱意がありました。」は、教員の授業展開の評価である。「5」評価の比率が78%である。「4」評価の17%と合算すれば95%となり、極めて高い比率となる。すなわち学生たちは本学教員が授業に「熱意」あり、と評価している、ことになる。

Q4「授業は、とてもわかりやすかった。」は受講生に対応した授業が実施されているかを調べるものだが、「5」評価した者の比率は64%である。「4」評価は20%である。「1」評価「全くそう思わない」（1%）、「2」評価「そう思わない」（3%）を合算すると5%を数える。「分かる」授業が展開されていることを示唆する結果であるが、5%の者が否定的な評価をしていることには留意が必要であろう。

Q5「授業の準備はよくできていました。」で、教材研究や本時の計画がしっかり行なわれているかを推測することができる。教員要因の他に、授業に必用な機器備品等の整備状況も重要である。「5」評価は73%である。満足すべき結果であろう。「5」評価と「4」評価を合算すると92%に達する。

Q6「学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。」も教材研究に関連する評価項目である。68%が「5」評価、20%が「4」評価である。「1」「2」を合算した比率が3%ほどになり、一部に不満を表明する厳しい目もある。

Q7「授業は時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。」は、時間管理の問題である。「5」評価は76%である。「4」評価が16%、両者合算すると92%になる。「1」評価と「2」評価の合算は2%である。

Q8「わからないことを質問できる機会や工夫がありました。」は、学生の授業参加を促しているかどうかを評価するものである。「5」評価が70%である。2%ほどの学生が低い評価を下している。ところで、教員のする学生への質問は「質問の機会」であろうか。また、「何か質問はありませんか」と質問を促すのは「質問の機会」を作ることになるだろうか。あらかじめ質問の時間を設定することなのだろうか。

Q9「授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。」は、教員のクラス管理技量を問うものとなっている。「私語・居眠り・中座」を授業妨害の三悪だとすれば、その悪弊を排除する姿勢が問われていることになる。64%が「5」と評価している。「5」評価と「4」評価を合算すると88%になる。「1」および「2」評価をして、対処が不適切と考える者が2%ばかりある。

Q10「この先生のこの科目を他の学生や他大学の学生にも受講を薦めたい。」は、

授業への満足度の一端を示すだろう。「5」評価が67%、「1」および「2」評価はそれぞれ1%、2%である。「5」と「4」の合算では88%になる。「推薦したくなる」授業としてかなり満足しているようである。

以上は、教員に対する評価であった、次に、学生自身の自己評価について見る。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました。」は、64%が「5」評価をしている。「4」評価と合算すると87%になり、熱意の高さが表明されている。

Q12「授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。」は、学生の授業への熱意の具体的な例証となる。熱意があれば絶えずシラバスを見ながら学習を行なうであろう。49%が「5」評価である。「4」評価が24%、両者で72%である。「1」「2」評価を合算すると9%である。かなりの学生がシラバスを利用しているようである。全学生がちゃんとシラバスを参照するようになれば、Q1やQ2の評価は、「5」になるだろう。

Q13「授業中、私語や携帯電話（メール等）、中座など授業を乱すような行為はしませんでした。」は、学生自身の授業参加状況を尋ねるものである。評価「5」としたものは、66%である。「4」評価は22%であり、「5」評価と「4」評価を合算すると88%ほどになる。「1」評価が0%、「2」評価が1%である。

Q14「この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。」によって、授業への「真面目な取り組み」ないし、学ぶことの本気度が推測できるだろう。「5」評価は58%、「4」評価は24%であり、8割以上が本気で学んでいるということであろう。「1」評価は1%、「2」評価は4%となっている。教員の実感はどうだろうか。欠席の多さが理由で成績不良になっているケースをGPAチェックで把握しているのではないだろうか。

Q15「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。」は、授業への取り組みの強さを示すだろう。「1」評価が29%であった。「1」評価とは授業時間以外での学習を「ほとんどしなかった」ことを示す。「2」評価（30分くらい）、の評価の比率は35%である。合算すると64%である。ある程度予習・復習等をしていると解釈できる「3」評価は23%となっている。3時間以上の学習をする「5」評価は3%、2時間くらいの「4」評価は9%である。学習時間に関する限り学生たちの不勉強ぶりは明白である。なお、この評価項目では5%（140人）の学生が「無回答」であった。この比率はおそらく短い学習時間を隠す自己防衛的な回答かもしれない。

Q16「この授業を全体的に評価してください。」は、授業クラスの総合的印象評価である。「5」評価をしたものの比率は54%である。かろうじて過半数を超えている。「4」評価は29%である。「4」と「5」評価の比率を合算すると約83%となる。まあまあ及第点であろうか。しかし、「1」評価と「2」評価を合算した比率が4%ある。無回答者が2%、「わからない」とした者が1%（38人）ある。

Q17「この先生の別の科目も受講したいと思います。」は、受講科目の授業が今後の授業に波及する効果を示唆するものであろう。今回の授業に満足度が高ければ他の科目へも誘因として働くと考えられるからである。「5」評価の比率は66%、「4」評価が20%である。8割以上の学生が一応この科目の担当者の授業に興味関心を持っていたであろうことが示唆される。一方「1」および「2」評価を合算した比率は8%あり、

これらは授業内容あるいは授業担当者への失望の表れだと解釈できよう。その教員の授業あるいはキャラクターが受講生の趣味に適合しなかった、ということであろう。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	12	.5	.5	.5
2	16	.6	.6	1.1
3	169	6.3	6.4	7.4
4	583	21.9	21.9	29.3
5	1881	70.6	70.7	100.0
合計	2661	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.2		
合計	2665	100.0		

Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	13	.5	.5	.5
2	34	1.3	1.3	1.8
3	199	7.5	7.5	9.2
4	587	22.0	22.1	31.3
5	1828	68.6	68.7	100.0
合計	2661	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.2		
合計	2665	100.0		

Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	7	.3	.3	.3
2	15	.6	.6	.8
3	112	4.2	4.2	5.0
4	446	16.7	16.8	21.8
5	2082	78.1	78.2	100.0
合計	2662	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2665	100.0		

Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	38	1.4	1.4	1.4
2	87	3.3	3.3	4.7
3	288	10.8	10.8	15.5
4	534	20.0	20.1	35.6
5	1715	64.4	64.4	100.0
合計	2662	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2665	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	10	.4	.4	.4
	2	35	1.3	1.3	1.7
	3	171	6.4	6.4	8.1
	4	500	18.8	18.8	26.9
	5	1944	72.9	73.1	100.0
	合計	2660	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計	2665	100.0		

Q6理解興味 of 工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	24	.9	.9	.9
	2	60	2.3	2.3	3.2
	3	231	8.7	8.7	11.8
	4	538	20.2	20.2	32.1
	5	1807	67.8	67.9	100.0
	合計	2660	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計	2665	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	11	.4	.4	.4
	2	45	1.7	1.7	2.1
	3	149	5.6	5.6	7.7
	4	424	15.9	15.9	23.7
	5	2030	76.2	76.3	100.0
	合計	2659	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2665	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	20	.8	.8	.8
	2	40	1.5	1.5	2.3
	3	219	8.2	8.2	10.5
	4	531	19.9	20.0	30.5
	5	1849	69.4	69.5	100.0
	合計	2659	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2665	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	18	.7	.7	.7
	2	37	1.4	1.4	2.1
	3	261	9.8	9.8	11.9
	4	649	24.4	24.4	36.3
	5	1691	63.5	63.7	100.0
	合計	2656	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.3		
合計		2665	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	38	1.4	1.4	1.4
	2	57	2.1	2.1	3.6
	3	238	8.9	8.9	12.5
	4	534	20.0	20.1	32.6
	5	1794	67.3	67.4	100.0
	合計	2661	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.2		
合計		2665	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	15	.6	.6	.6
	2	51	1.9	1.9	2.5
	3	280	10.5	10.5	13.0
	4	622	23.3	23.4	36.4
	5	1692	63.5	63.6	100.0
	合計	2660	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
合計		2665	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	107	4.0	4.0	4.0
	2	127	4.8	4.8	8.8
	3	499	18.7	18.8	27.6
	4	631	23.7	23.7	51.3
	5	1296	48.6	48.7	100.0
	合計	2660	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
合計		2665	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	.2	.2	.2
	2	33	1.2	1.2	1.4
	3	276	10.4	10.4	11.8
	4	592	22.2	22.3	34.1
	5	1751	65.7	65.9	100.0
	合計	2657	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.3		
合計		2665	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	23	.9	.9	.9
	2	85	3.2	3.2	4.1
	3	389	14.6	14.7	18.7
	4	624	23.4	23.5	42.2
	5	1533	57.5	57.8	100.0
	合計	2654	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	11	.4		
合計		2665	100.0		

Q15予習復習時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	742	27.8	29.4	29.4
	2	884	33.2	35.0	64.4
	3	582	21.8	23.0	87.4
	4	233	8.7	9.2	96.7
	5	84	3.2	3.3	100.0
	合計	2525	94.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	140	5.3		
合計		2665	100.0		

Q16全体的評価

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	14	.5	.5	.5
	2	95	3.6	3.7	4.2
	3	342	12.8	13.2	17.4
	4	737	27.7	28.5	45.9
	5	1400	52.5	54.1	100.0
	合計	2588	97.1	100.0	
欠損値	0	38	1.4		
	システム欠損値	39	1.5		
	合計	77	2.9		
合計		2665	100.0		

Q17別の科目も受講したい

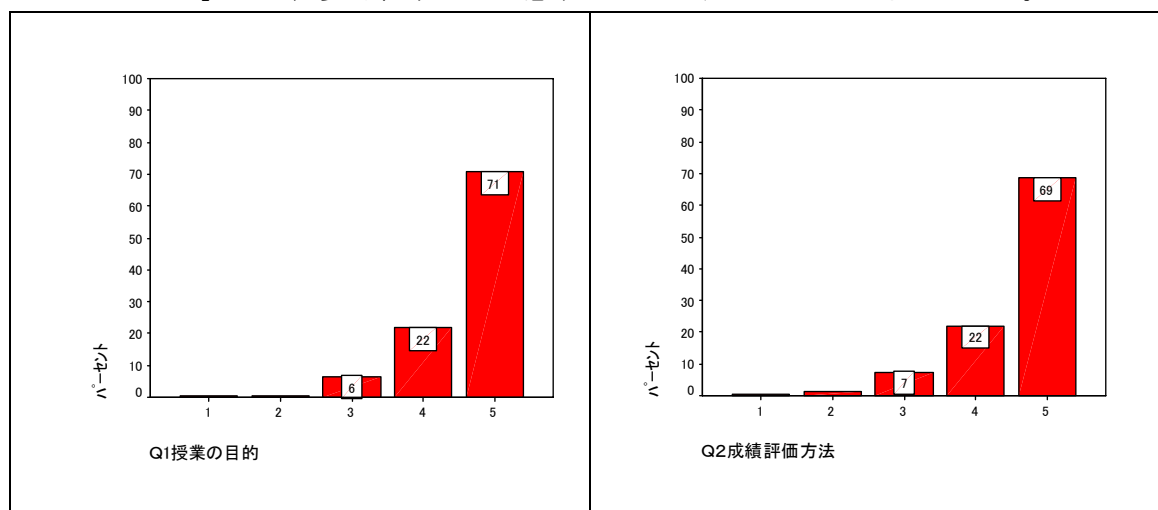
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	68	2.6	2.7	2.7
	2	68	2.6	2.7	5.4
	3	224	8.4	8.8	14.2
	4	504	18.9	19.9	34.1
	5	1673	62.8	65.9	100.0
合計		2537	95.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	128	4.8		
合計		2665	100.0		

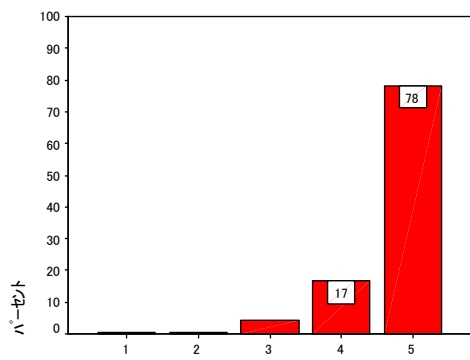
つぎに、各設問への回答の度数分布を棒グラフにして掲げる。(Q1～Q17参照) グラフ中の囲み内の数値は全体に対する評定者中の比率である。教員に関する場合、すべて逆L字型になっている。「5」評価が突出し、以下低い比率となった形状である。

「5」評価が多く、その他の評価は少ない。良好な評価であることが分かる。

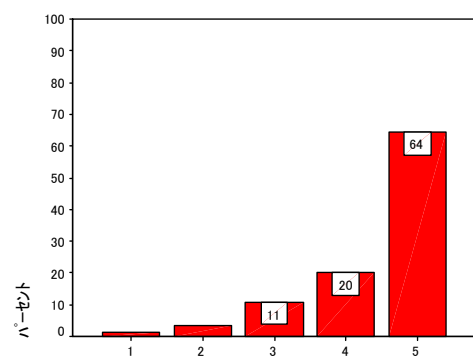
学生に関する場合もほぼ逆L字の形状をなし、学生たちは高い自己評価をしていることが分かる。

Q15「予習復習時間」が全17設問項目中、唯一逆L字型になっていない。「1」評価から「5」評価にかけてならだかに漸減していく形状を示している。自学自習を「ほとんどしない」が一番多く、学びへの意欲の弱さを表しているかもしれない。

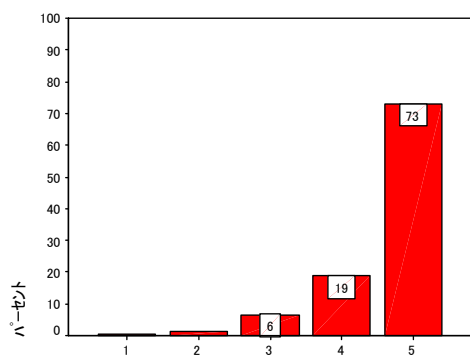




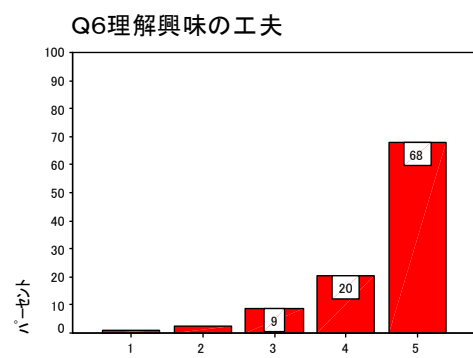
Q3先生の熱意



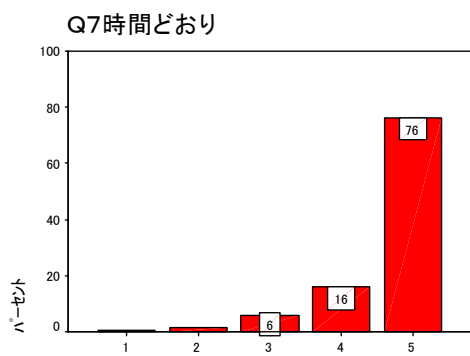
Q4わかりやすい



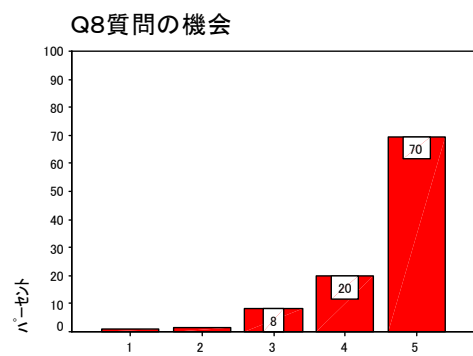
Q5準備よい



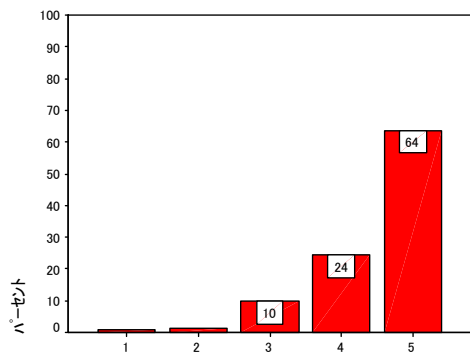
Q6理解興味工夫



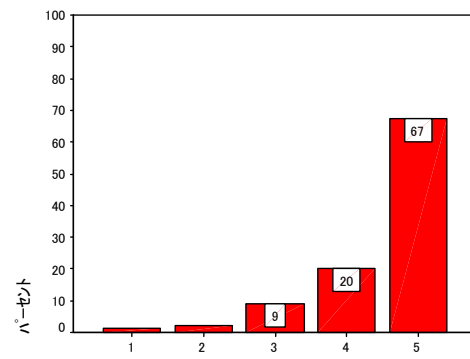
Q7時間どおり



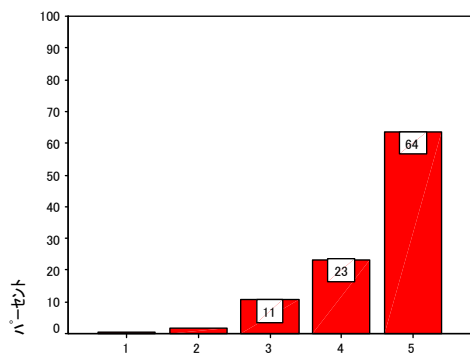
Q8質問の機会



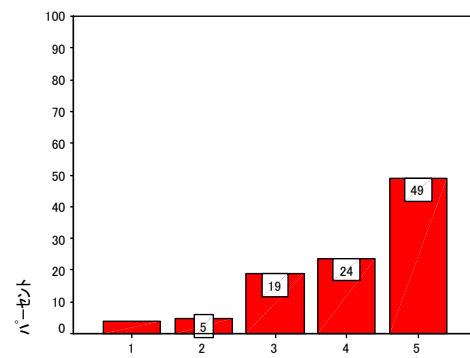
Q9 授業妨害へ対処



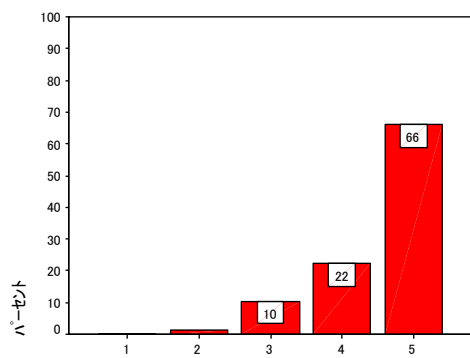
Q10 薦めたい



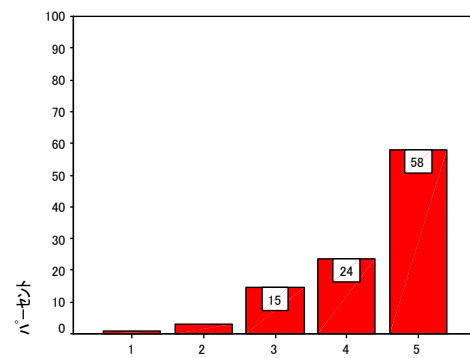
Q11 熱意を持って参加



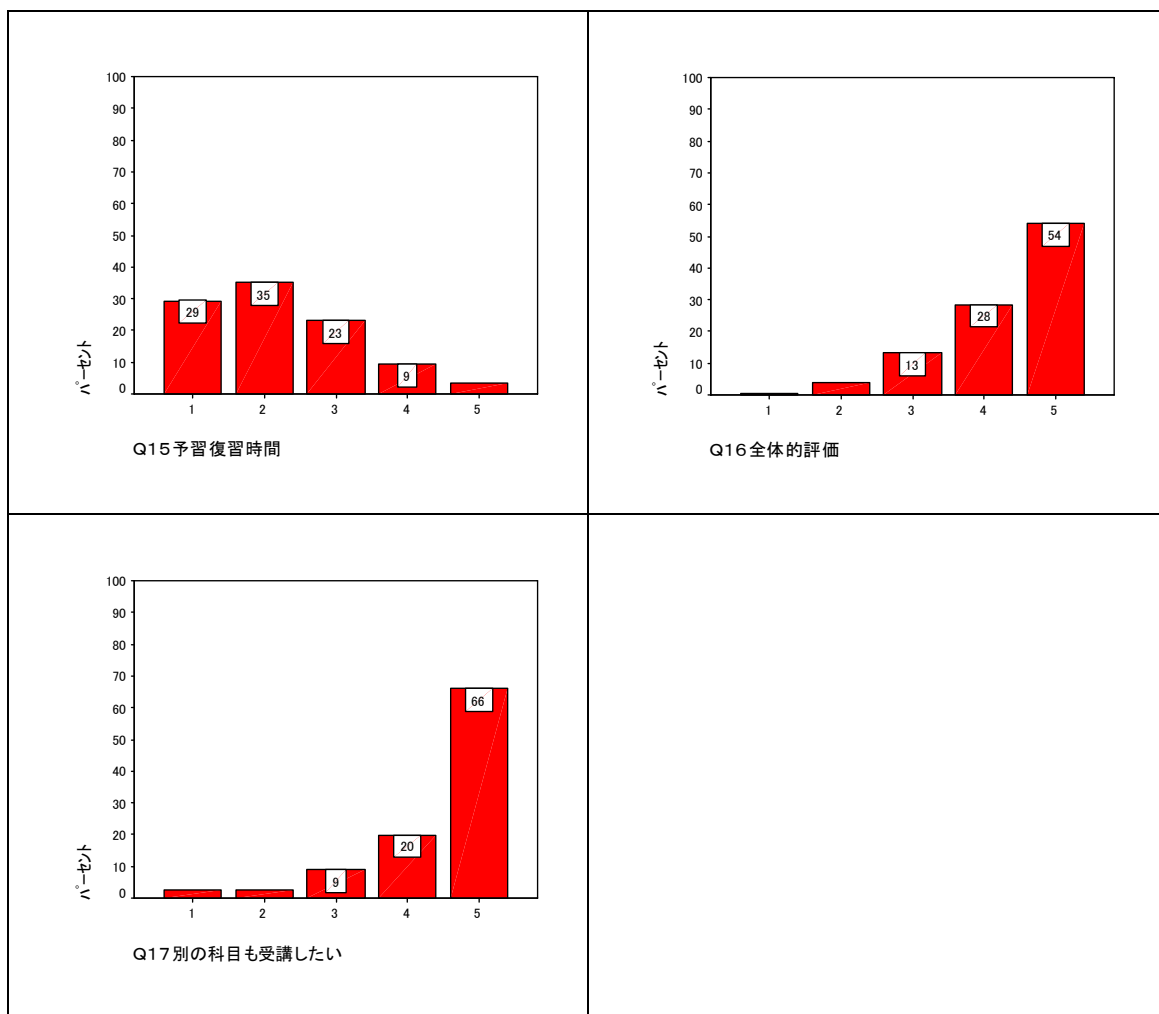
Q12 シラバス参考



Q13 授業を中座しない



Q14 遅刻欠席ない



2 学生による授業評価の検討

各設問に対する「1～5」の評定を、それぞれ1点から5点到数値化し、これをもとにし、平均値等の基本等計量を求めた。

ここでは、全クラスの評価を一括した結果をしめす。

全般的に、5点満点中4点以上の評定平均となっており、かなり満足できる授業が展開されていることが示唆される。とりわけ、教員に関わる項目では4.5点以上の評価がなされており、Q4「わかりやすい」については、やや難点があるものの極めて高い評価となっている。特に「先生の熱意」が高評価（4.72）なのは、大学の人的資産が高く評価されていることであり、まずは教員としては「安心」してよい材料となろう。

ただし、これは全教員を一括した場合のことであって、個々の教員にあっては濃淡があることは言うまでもない。

なおQ16「全体的評価」は、4.44であり、十分満足すべき結果であろう。ただし、評価を「白紙」回答した者も若干あるので手放しで喜ぶわけにはいくまい。

Q12「シラバスを参考にする」のは、4点台ぎりぎりの評定がされているが、これは学生自身の自己評価である。標準偏差が17項目中最大（1.105）となっており、個人差の大きいことがわかる。

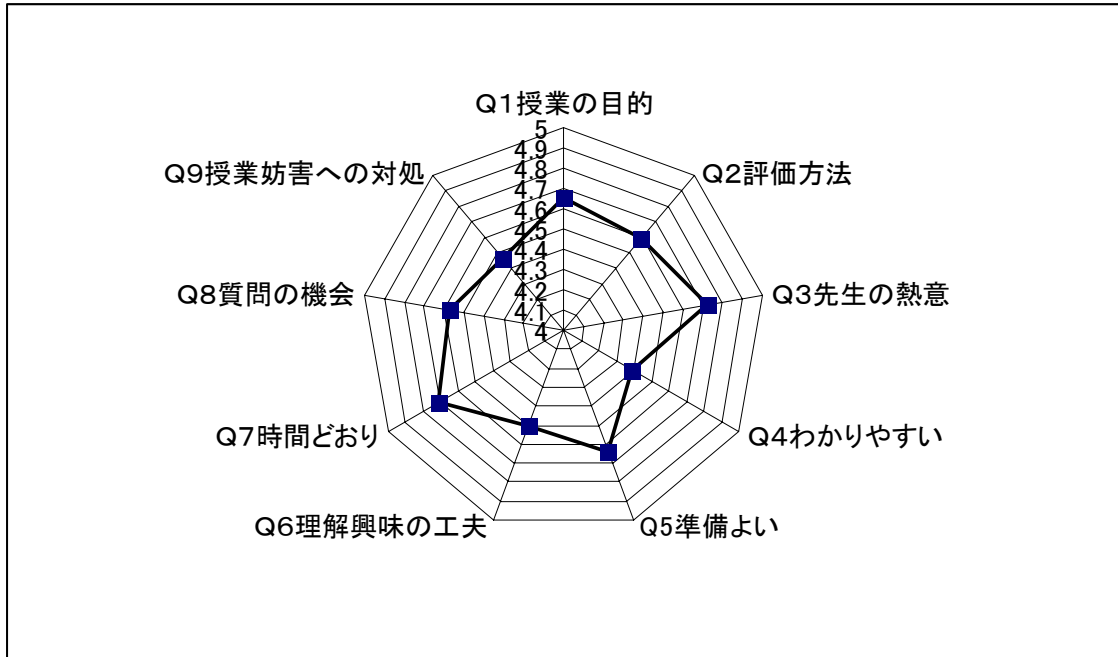
また、学生要因としての「予習復習に掛ける時間」が2.22となっており、ほぼ30分から1時間程度の学習時間である。教員は学生に学習させる一工夫が求められている、ということであろう。本学教員は、大きな課題を抱えていることになる。

記述統計量

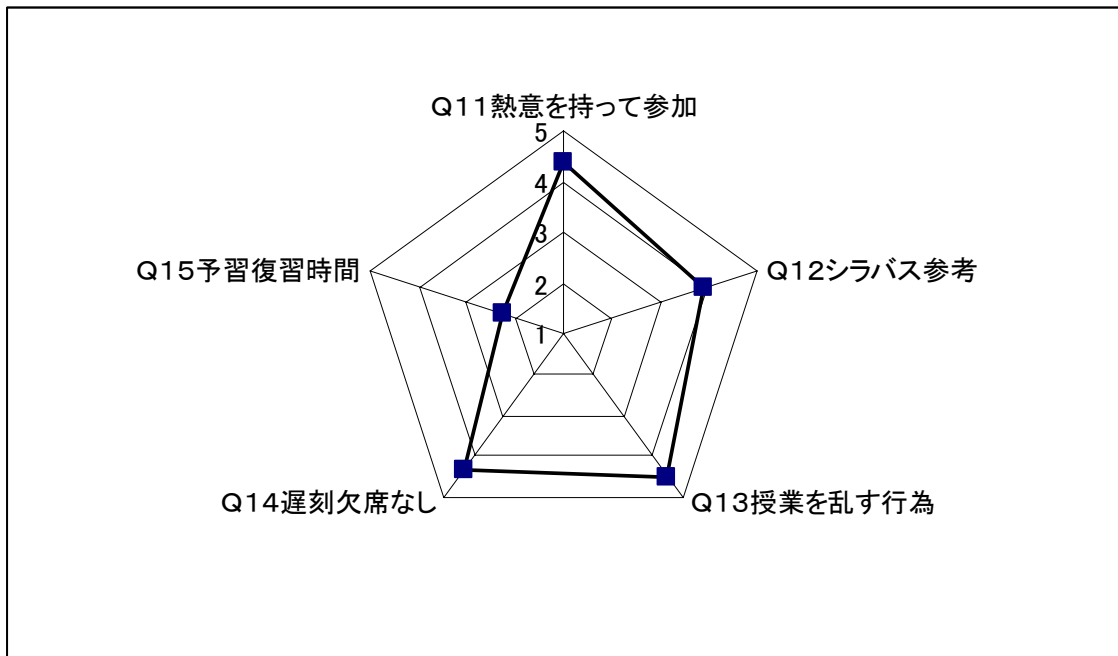
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2661	1	5	4.62	.673
Q2成績評価方法	2661	1	5	4.57	.728
Q3先生の熱意	2662	1	5	4.72	.592
Q4わかりやすい	2662	1	5	4.43	.910
Q5準備よい	2660	1	5	4.63	.697
Q6理解興味の工夫	2660	1	5	4.52	.817
Q7時間どおり	2659	1	5	4.66	.698
Q8質問の機会	2659	1	5	4.56	.769
Q9授業妨害へ対処	2656	1	5	4.49	.782
Q10薦めたい	2661	1	5	4.50	.854
Q11熱意を持って参加	2660	1	5	4.48	.802
Q12シラバス参考	2660	1	5	4.08	1.105
Q13授業を中座しない	2657	1	5	4.52	.745
Q14遅刻欠席ない	2654	1	5	4.34	.902
Q15予習復習時間	2525	1	5	2.22	1.070
Q16全体的評価	2588	1	5	4.32	.876
Q17別の科目も受講したい	2537	1	5	4.44	.952
有効なケースの数 (リストごと)	2353				

3 観点別比較

各評価項目の評価の「1」～「5」を1点～5点に読み変え、これらをレーダーグラフ化してつぎのページ以下に掲げた。Q1からQ9は、観点別の授業評価における教員要因である。目盛は4.0から0.1刻みで表してある。Q3「先生の熱意」の項目での評価が一番高いことがわかる。逆にQ3「わかりやすい」がもっとも低い評価である。大学全体としてどの観点で改善の必要があるのかが明らかであろう。すなわち「わかりやすい授業」と言うことになる。ところで、既に見たように該当するクラスの為の「予習復習の時間」の少なさが明らかになっている。このような状態で「わかりやすさ」を求めるのはいかなるものであろうか。予習復習をしなくても「わかりやすい授業とは」。学生の授業に臨む態勢の弱さがあるのではないか。教員としてどのように対処するのが喫緊の課題であろう。



つぎに学生要因に学生要因について見る。Q 1 5 「予習復習時間」のスコアの低さが注目される。すなわち、学習量が少ないということである。学生の側から見て授業時間以外に、自学自習いわば予習復習しないでも成り立つ授業とはなにか。教員に授業の質が問われているのではないか。



4 自由記述による評価

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善して欲しい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったこと、④学長に聞いてほしいことの4つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業改善の資料を得ることである。

ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

授業の改善について、①授業の進め方、②授業の内容、③授業の運営方法等の多岐にわたって評価・意見が寄せられている。具体例をつぎに掲げる。

①授業の進め方については、・予習の時間をとりたいので講座テキスト等を前もって渡してほしい。・生徒ともう少しコミュニケーションを取ってほしい。・説明の内容が理解しにくい。・宿題、課題が多い。等

②授業の内容については、・難しくて内容が良く理解できない。・講義目的を明確にしてほしい。・質問ができる時間を取ってほしい。等

③授業の運営については、・まわりのおしゃべりが多く、うるさい。・黒板を使う時はしっかり使ってほしい。・時間配分をもっと考えてほしい。等

いずれも多様な学生を対象としている課題だけに、教員と学生がより密接に意思疎通を図り、相互理解を深めていく場をつくっていく必要がある。

おわりに

2010年度後期における本学の授業は、教員要因についてはほぼ満足な結果である。5段階評価でいずれも4点を超えている。ただ、授業が「わかりやすい」に関する評価は、教員要因の全評価項目の中で一番低い評価となっている。絶望的に低い、といった状態ではないが、大学教育において「分かりやすい」という課題は論議する必要があるだろう。確かに、多様な学力の学生集団に対する授業（教育）であるので、配慮すべき問題であり、いわゆる「学士力」の保証の点からすれば「理解」に至るまでに学生を訓練しなければ責任を果たせていないことになる。

学生要因については、特に学習時間の短さが気になる点である。すなわち、学生がよりよく学習する教育が行われていないかもしれないという懸念があるからである。

自由記述の部分において、「もっと分かりやすい授業にしてほしい」という評価・意見が多く寄せられている。また、「宿題、課題が多すぎる」との声も出ている。

今後、こうした意見・希望をもとに授業改善を一層進めていくためには、教員と学生が一層積極的に意思疎通を図り、相互理解を深めていくことが肝要となる。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7月
後期 1月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問1～17について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそうは思わない

評 価 欄

1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1	
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1	
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1	
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1	
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1	
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1	
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおり終わりました。	5	4	3	2	1	
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1	
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1	
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1	
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1	
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1	
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1	
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1	
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 (3時間以上)	4 (2時間ぐらい)	3 (1時間ぐらい)	2 (30分ぐらい)	1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可	0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1	

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入試区分	1 一般入試	2 推薦入試	3 AO入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ（聞いてほしいこと）													